

【島のくらしの情報】

伊島

<p>①仕事（収入）の状況</p>	<p>島における就業者の多くが漁業に従事しており、周辺海域にはアワビ・サザエ等の生息に適した磯が多数あることから、採貝業を営む就業者もおりますが、台風等の影響もあり漁業資源は減少傾向にあります。</p> <p>島では漁業以外で生計を立てることができる方を希望しています。</p>
<p>②住居の状況（貸家、空き家など）</p>	<p>島民の減少に伴い、空き家がでてきていますが、賃貸については、個別に相談となります。</p> <p>空き地もあり、相談により新築も可能ですが、資材の輸送の関係上、本土に比較して工事費用は高くなる傾向があります。</p> <p>現在、Uターン向けの公営の若者定住促進住宅を建築中です。</p>
<p>③医療環境の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療施設としては、阿南市設置の伊島診療所があり、阿南市医師会に委託して週1回の巡回診療が実施されていますが、専門的医療については本土での診察になります。</li> <li>・救急患者については、地元住民の相互協力のもと、漁船等で本土へ搬送しています。</li> </ul> <p>また、現在ヘリポート建設の計画が立ち上がっております。</p>
<p>④福祉環境の状況</p>	<p>住民で組織する伊島町会が介護サービス事業者認定を受け、平成12年度より「伊島町高齢者ふれあいセンター」を拠点にしています。</p>
<p>⑤教育環境の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本地域には、小学校及び中学校が各1校設置されており、平成28年5月現在で小学生7名、中学生6名が在学しています。</li> <li>・文化施設として、小・中学校併用の屋内運動場があり、地域のスポーツ活動やコミュニティ活動の拠点として利用されています。</li> <li>・なお、高等学校は本地域にはなく、本土に寄宿して通学しています。</li> </ul>
<p>⑥上下水道・電気・ガスの状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道については、平成22年度より地下水を利用しています。（市営簡易水道）</li> <li>・し尿及び生活排水については、コミュニティ・プラントを整備しています。</li> <li>・電気については、海底ケーブルが敷設され、電力普及率は100%となっています。</li> </ul>

⑦本土との交通手段（費用、時間、便数など）	<p><b>【航路】連絡船</b>  伊島漁港と本土答島港の間15.4キロメートルをみしま（平成15年建造。軽合金船19トン。定員48名。片道1,020円）が  1日3往復、片道30分で郵便船を兼ねて運航しています。  （本土答島港の最寄り駅はJR牟岐線・阿波橋駅。同駅から徒歩10分）</p>
⑧島内の交通手段（費用、便数など）	<p><b>【島内交通】徒歩</b>  狭い平地に集落が密集しており、道路はコンクリート舗装で幅員が狭いため、交通手段は徒歩に限定されています。</p>
⑨買い物場所・物価の状況	<p><b>【買い物場所】</b>  伊島漁業協同組合内に商店が1店舗あります。  日用品はこちらでほぼ揃います。</p>
⑩これまでの移住実績	<p>特になし</p>
⑪移住を希望される方の短期滞在、下見に対する支援の状況	<p>特になし</p>
⑫移住にあたっての支援の状況	<p>特になし</p>
⑬そのほか島での暮らしぶりについて伝えておくべき必要な情報	<p>「イシマササユリ」を中心に、交流活動を行っております。  小・中学校における学校間交流をはじめ、本土の高等学校や企業と連携した活動を行っております。</p>